CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
Provided by Kansai University Repository

関西大学学術リポジトリ
Kansai University Institutional Repository

近代化の原動力　「民間の力」に希望　近代紡績発祥の地（大阪・大正区）

著者	大西　正曹
雑誌名	日本経済新聞　まちかど羅針盤
発行年	1998-08-11
権利	(C)日本経済新聞社　このデータは、日本経済新聞社の許諾を得て作成しており、無断での複写・転載は禁じられています。
URL	http://hdl.handle.net/10112/7283

まちかど羅針盤

`98.8.11　日経新聞

● 近代化の原動力　「民間の力」に希望

近代紡績発祥の地（大阪・大正区）

大阪市の西、大正区三軒家東小学校に隣接する公園に「近代紡績工業発祥の地」と書かれた石碑がある。ここがかつて「東洋のマンチェスター」といわれ、日本の近代化に大きく貢献した「大阪紡績（現東洋紡績）」の跡地だ。

明治政府は、紡績業の振興で財政危機を打開するという国策を打ち出した。まず、明治十二年に英国から紡績機を買い入れた。それを民間に無利子、十年年賦で払い下げ、官営模範工場を造る計画を立てた。各地に紡績所が創設されたが、財政危機打開には至らなかった。原因は規模が小さいことと、動力として水車を用い、初期投資がかかりすぎたことだった。

この窮状を救うべく、民間の力で近代的な大紡績工場を建設する計画が浮上し、計画に賛同した大阪在住のエンジェル（ベンチャー企業への個人投資家）の参加を得た。

工場予定地には、早くから船着き場として発展していた三軒家村地区が指定され、明治十六年七月に日本初の大規模な近代的紡績工場が操業を始めた。明治二十四年には工員四千人近くを擁する大工場に発展した。この成功に刺激されて近辺には紡績・紡織会社の関連企業が集結した。さらに多くの産業が集積した一大臨海工業地区へと変ぼうを遂げていく。この後の戦災と公害規制、産業転換で、この地区の工場は急速に減少した。今日では、その跡地が民間の力でウォーターフロントとして開発が試みられている。

平成不況に直面し出口が見い出せない日本の経済にとって、明治期の大阪のエンジェルたちが試みた「民間の力」による壮大な実験の成功を示す石碑は、私たちの未来に対して一条の光を投げかけている。

（関西大学教授　大西正曹）